

試験研究成果普及情報

部門	内水面	対象	研究
課題名：高滝湖におけるワカサギの再生産状況			
[要約] 高滝湖（人工湖）及びその流入河川において、ワカサギの産着卵や仔魚の出現状況を調査している。ワカサギの自然産卵は2002年に初めて確認され、同湖の自然環境に順応して行われていたことが明らかとなり、安定的な資源利用・管理につながる知見が得られている。			
キーワード ^① ワカサギ，自然産卵，再生産，高滝湖，人工湖			
実施機関名	主 査	水産総合研究センター	内水面水産研究所
実施期間	2005年度～2008年度		

[目的及び背景]

養老川中流に位置する高滝湖（人工湖）では、ワカサギの卵放流等を行ってきた結果、ワカサギ釣りを目的とした多くの遊漁者が訪れるようになり、冬期の観光資源となっている。しかし、ワカサギ資源には豊凶の差がみられることから、安定的な利用を図るため、再生産の状況を調査している。

[成果内容]

- 1 2002年に湖内で実施した調査時に、ワカサギ仔魚が放流日以前に初めて採捕された（表1、図1）。
- 2 2006年に養老川本流でワカサギの産着卵が採取され、以降毎年、産着卵を確認している。また、2008年には流入河川である古敷谷川でも産着卵を確認できた（図2）。
- 3 自然産卵由来の仔魚は、餌料となる動物プランクトンの密度が高くなる3月に出現し始めていた。
- 4 湛水後10年以上に及ぶ卵放流の結果、同湖の自然環境に順応した再生産が行われていることが明らかになった。

[留意事項]

ワカサギの再生産には、産卵に適した環境（水深・流速・底質）が重要となる。

[普及対象地域]

県下のワカサギの放流水域

[行政上の措置]

[普及状況]

[成果の概要]

表 1 2002～2008年の放流日

年	卵放流日	ふ化仔魚放流日
2002年	4月11日	—
	4月17日	—
2003年	4月8日	—
	4月17日	—
	4月23日	—
2004年	4月19日	—
	4月20日	—
2005年	—	4月27日～30日
2006年	3月15日	4月18日～28日
		5月6日～11日
2007年	—	4月2日～5日
		4月19日～22日
2008年	3月19日	3月20日～24日
		4月19日～23日

卵放流日：シュロ枠に付着した発

眼卵を放流した日

ふ化仔魚放流日：ふ化器から仔魚

を放流した日

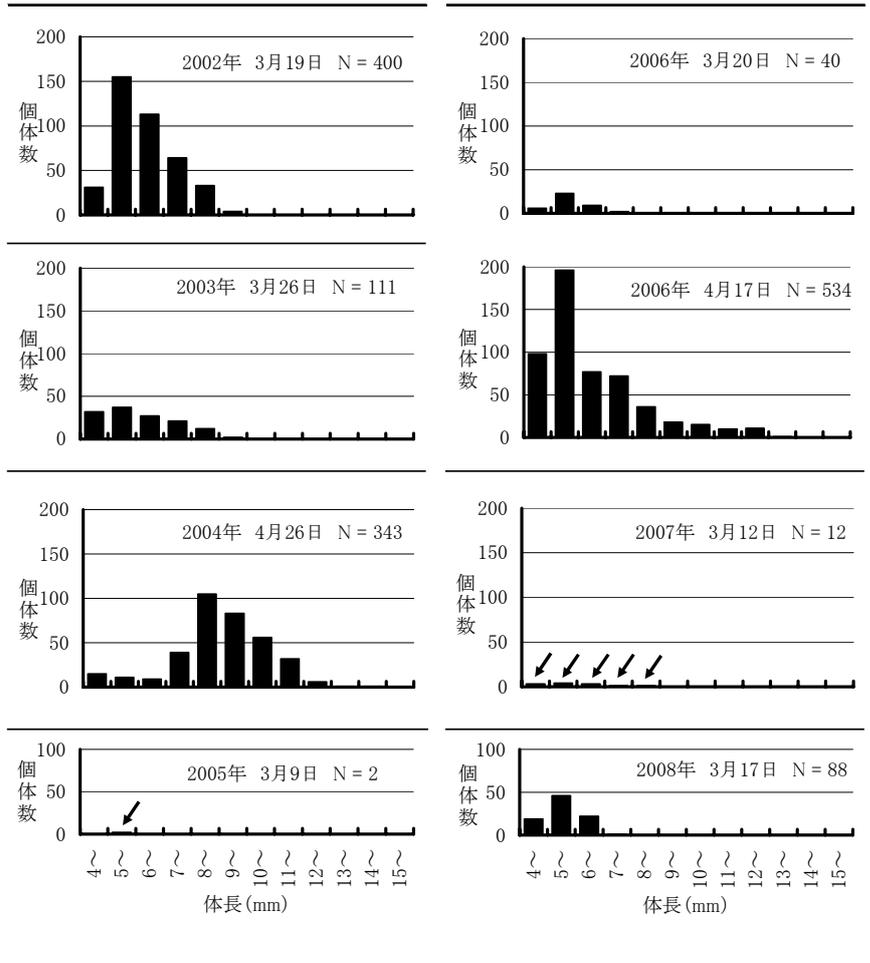


図 1 仔魚の体長組成

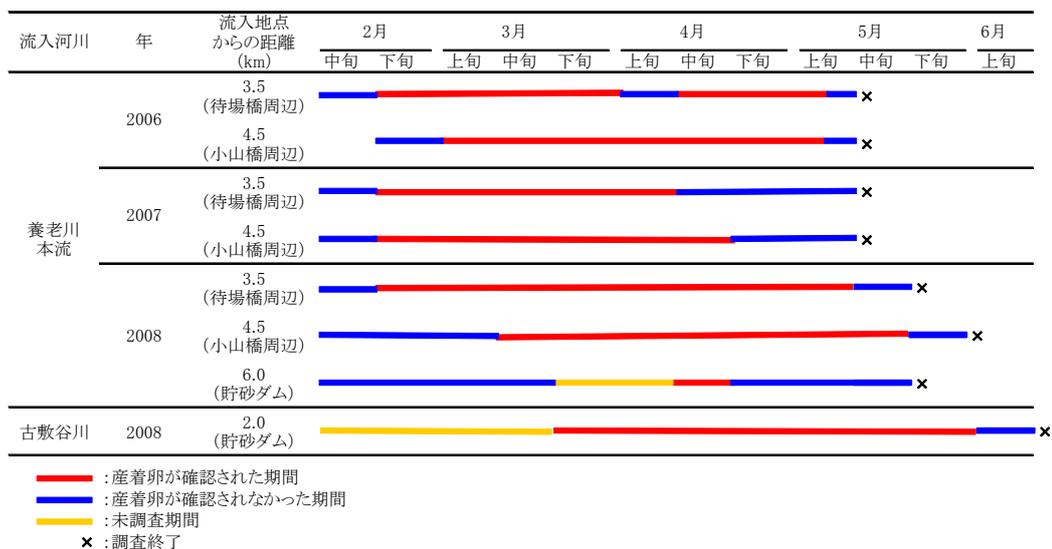


図 2 産着卵の出現状況

[発表及び関連文献] 藍・尾崎 (2008) : 千葉県高滝湖 (人工湖) におけるワカサギ *Hypomesus nipponensis* の自然産卵. 千葉水総研セ研報 (3), 15-20

[その他]